

フットワーク・チームワーク・ネットワーク

2月13日に、本校にて、第2回高等学校特別支援教育連絡会が開催されました。地域の高等学校の取組を紹介し合いながら、来年度の校内支援体制の整備や特別な支援を必要とする生徒への支援について活発な情報交換をすることができました。また、今回も、地域の中学校から上級特別支援教育コーディネーターが2名参加し、中高連携についての話し合いも深めることができました。



1 情報交換から

- ・3学科から成る高等学校である。実習などの学習が多くなるため、それが目の前の活動に見通しがもちやすいことにつながるためか、気になる生徒についても実習で主となる教諭を中心に対応できている。
- ・普通高校でも入学してくる生徒の障害が多様化している。高等学校支援隊と連携をとり、個別の指導計画・支援計画を作成している。さらに、研修会などを計画し、職員の専門性を高めていきたい。
- ・生徒からADHDではないかと相談を受けて、どう答えていいのか迷っているケースがある。
- ・受検などに際し、入学後に予想される生徒の困り感に対し、合理的配慮について、学校でできること、できないことをしっかりと説明しながら、受験生や保護者との合意形成を図っていくことの大切さを実感している。

○「個別の指導計画の作成」、「障害者差別解消法」、「合理的配慮」、等、話し合いの中で参加したコーディネーターから多く出されるようになってきています。ケースの紹介の中では、障害理解や自己理解の難しさが挙げられていましたが、中学校での支援の在り方とも連携させながら育てていかなければならない大切な点だと改めて確認できました。高等学校支援隊に加え、地域の上級特別支援教育コーディネーターとも連携を取りながら進めていくことができることを確認しました。

2 来年度の取組として

- ・多様性を認め合うことができるように、他校で実施している障害理解の出前授業などを参考に、実施を検討していきたい。
- ・大学入学後の生活の仕方などへの支援も必要。大学との連携の取り方なども進路にあたって視野に入りたい。
- ・1年生全員を対象に、グループエンカウンター研修をした(3回/年)。年度の途中で、診断のつくケースなどもあった。高等学校支援隊を活用して、個別の指導計画等の作成に取りかかりたい。

○地域の高等学校では、「高等学校特別支援隊」についてかなり周知されてきています。本連絡会を通して、在籍する同じ障害のある生徒に対する有効な支援を情報交換することもできていました。また、障害理解教育など、他校で実践している取組を知ることにより、来年度、自校でも実施してみようという学校も出てきています。

3 上級特別支援教育コーディネーターから

- ・中学校でも、保護者や生徒の揺れ動く気持ちに寄り添いながら、進路選択などを考えていかなければと思っている。中学校で持っている情報をしっかり高等学校に伝えられるようにしたい。中学校でも、担任が代わっても担任間で情報引継ぎができるように、効果的な支援なども盛り込んだ個別の指導計画書などをさらに活用したい。

4 来年度の本連絡会議について

- ・来年度は、年2回の本連絡会議の他に、秋頃に、事務局から各高等学校に訪問させていただき、特別支援教育コーディネーターと情報交換をする機会を設けることを提案しました。タイムリーに授業参観やケース会議などにつなげていきたいと考えています。

